

七小校長室便り

開校52年目

国立市立国立第七小学校

校長室便りNo.8 令和6年(2024年)11月21日

11月16日(土) 学校公開<道徳授業地区公開講座>を行いました。

11月16日(土)、学校公開として、道徳授業地区公開講座を行いました。これまで、本校では、教育目標の重点である「やさしく」を達成していくために、心の教育の要である道徳の授業の授業改善を目指して、校内研究として学んできました。また、今年の2月には、国立市教育委員会より令和4・5年度の研究奨励校として指定を受け、市内の教員の先生方に、学びの一端を発表する機会を与えていただきました。

令和6年度も、「やさしく」の重点目標の達成を目指して、校内研究で道徳の授業の研究を続けておりますが、子供たちの心を揺さぶることができる「ざわつく道徳の授業」を通して、本校の教員と児童の心の教育推進の様子を、今回の学校公開を通して、保護者や地域の皆様にご覧いただくことができましたと思っています。

有難いことに、これまでの本校児童の自己肯定感の高さについては、これまでと同様に高い状態にあり、学校生活満足度調査(Q-U調査)の結果にも表れています。また、主体的な挨拶や取組の意欲等についても高まってきている様子があります。引き続き、更なる道徳の授業改善を目指し、校内研究を通して、子供たちの心の教育を推進してまいります。



<講師の石丸先生の模擬授業と講演から>

また、今回の道徳授業地区公開講座では、創価大学教職大学院 教授 石丸 憲一先生に、今年度も講師をお引き受けいただき、参加された方々を児童役として、道徳授業の模擬授業を行っていただきました。

道徳の授業は、ある意味で、日常生活や社会生活の中で経験することを、模擬的に体験することを通して、様々な心の有り様やその場その場での行動様式等、知識として知ることや自分の心の中に感覚として残るものとして、学ぶことになる面があります。

もちろん、授業のねらいにある道徳的な価値に迫っていくよう、教科書や指導の手立てを使って指導を行いますが、自分の思いや考えが答えとなる道徳の授業においては、ねらいにある道徳的な価値に気付いたり、深めたり、広げたり、共感したりしながら、心の働きを最大限に使って、心のトレーニングを行うことにもなると私は考えています。

今回、石丸先生の授業を受けていただいた方には、子供たちの授業時の心の動きや気持ちなどを体験いただけたのではないかと思います。これからも、子供たちの道徳性を養い、高めていく心の教育を進めてまいります。ご理解の程、よろしく願いいたします。

10月19日(土)の運動会を通して

前日までの天気とは打って変わり、夏日に近いような天候の中、本校の第52回の運動会を行うことができました。多くのご来賓の方をお迎えするとともに、地域の方や関係各位の皆様にご来校いただき、本校の児童がこれまで体育等で培ってきた力をご覧いただくことができました。

また、保護者の皆様には、日頃の子供たちの成果をご覧いただき、また、たくさんのご声援と励ましの拍手をいただきました。心から御礼を申し上げますとともに、また、新たな本校の運動会の1ページを綴ることができました。

今回の運動会では、本校の子供たちのそれぞれが、それぞれの目標をもち、苦手なことに挑戦したり、踊りや徒競走で自分の目標を超えようとしたりしながら、運動会までの練習や取組に力いっぱい頑張りました。

また、最高学年の6年生においては、運動会の司会や放送等の係活動を行いながら、教職員と共に、運動会の運営を支える活躍を見せてくれました。応援団においても子供たちの士気を高める応援を本校のリーダーの一人一人として、最後まで頑張りぬきました。



<学校行事を通して>

学校行事や様々な教育活動、各教科等の授業には、必ずねらいがあり意図的です。

本校における教育活動で児童に求めていることは、自分が自分のことを知り、相手を知り、その中で自分の目標に向かって主体的に取り組む力、未来を主体的に生きる力を付けることを大切にしています。その主体性を高めるための内容や取り組み方等を検討し、各児童が身に付けることができるように計画し、意図的に実施していくことに努めています。

今回の運動会では、学校行事という集団の中で、自分の苦手なところを知ったり、できなかったことをできるように挑戦したり、「上手くいく」、「上手くいかない」それぞれの時の対処の仕方や方法を学んだりしながら、練習に励んできました。

また、体育で学習してきたことを活かしながら、団体や個々のダンス等の表現運動に取り組んだり、基礎的な体力の1つでもある走ることに力を入れたりして、子供たちのそれぞれの課題や目標を達成させていくことに力を入れて取り組みました。

<コロナ禍からの変化>

昨年の5月からコロナ禍の制限が大きく変化し、コロナ禍以前の日常が戻ってきました。

私が着任した4年前は、コロナ禍のど真ん中でしたので、その当時の走る姿や演技する姿と比べても、やはり大きな変化を感じています。

走ることでは、どの学年においても手の振り方が大きくなり、力強さを感じました。走り抜けることにおいても、最後まで頑張りぬき、走りぬこうとしていた姿が多くあり、明らかに変化を感じました。体力としては、まだまだ課題を感じるころですが、今年度の運動会から感じた、子供たちの躍動感は、久しぶりに子供たちの力が戻ってきていることを示しているように思いました。

ダンス等の表現においても、低学年の玉入れで投げる姿に力強さを感じ、踊る姿からは、表現をすることへの抵抗感の少なさも見られたと思っています。また、中学年や高学年においても、表現における変化を感じました。低学年に感じた抵抗感の少なさもそうですが、手を伸ばすこと、動きを止めること、そして、表情の豊かさなどから、明らかに変化を見ることができました。特に、最高学年の6年生の笑顔には、本校児童の成長を見て感じ取ることができました。



個人差はもちろんありますが、どの子供たちもそれぞれの学年の中で、自身の目標に向かって取り組んだことや挑戦した姿があり、閉会式の最後まで頑張りを見せてくれました。

学校の教育活動の大切なところの1つは、それぞれの目標に向かっての達成感を感じられるように挑戦し、粘り強く頑張りぬくところです。これからも、本校の児童の素直で自己肯定感の高い子供たちをさらに高め、育ててまいります。

【校長のつぶやき】

先日、全国の小学校の校長が集まる全国大会に行かせていただく機会に恵まれ、参加してまいりました。場所は、徳島県でした。私の田舎の和歌山県には、フェリーでいくこともでき、意外と近い県ではありましたが、今回初めての訪問となりました。いつも違う環境で、いつも違う方々と、それぞれの視点をもちつつも共有し合うことができる話合いは、とても有意義な時間で、もう時間がないのかと思うほどでした。会場のアスティ徳島



しかし、どの地域の校長先生方も同じように話していたのが、教員不足です。どこの地域においても、教育現場を支える先生方を確保することに様々に工夫していると共に、今、働いている先生方が更により良い教育現場として働くことができることにも力を入れていることが分かりました。同じ立場の仲間が同じように悩み、頑張っていることが大きな支えになりました。